

# 諸子百家「韓非子・墨子」確認テスト（漢文） | 定期テスト対策 | 誰でも古典塾

## 解答・解説

---

問1 刑（処罰）と徳（恩賞）／（解説）「二柄」＝二つの取っ手の意で、臣下を操るための手段をたとえる。直後に「二柄者、刑徳也」とある。「徳」はここでは道德の意ではなく「恩賞を与えること」を指す点に注意。

問2 明主の其の臣を導制する所の者は、二柄のみ／（解説）「所導制其臣者」は「其の臣を導制する所の者」と読む。「而已矣」は「のみ」と読み、強い限定を表す。意味は「すぐれた君主が臣下を導き統御するための手段は、二つの取っ手だけである」。

問3 読み…のみ 意味…～だけだ、～にすぎない（強い限定）／（解説）「而已（のみ）」をさらに強めた句末表現。「二柄而已矣」で「二つの取っ手だけである」となる。

問4 （罪人を）殺すこと、これを刑といい、（功ある者を）祝い賞すること、これを徳という。／（解説）「殺戮之謂刑」は「殺戮、之を刑と謂ふ」。「A之謂B」で「A、これをBという」の形。「慶賞」は功績をたたえて与える恩賞。

問5 イ／（解説）「殺戮之謂刑」は本来「謂殺戮（為）刑」の語順で、目的語「殺戮」を動詞「謂」の前に出し、「之」で受け直して強調した形。「A之謂B」＝「A、これをBという」。エの指示語の用法と紛らわしいが、ここでは前に出した目的語を承ける働き。

問6 (ア) 法 (イ) 勢 (ウ) 術／（解説）法は公開された成文のきまり、術は表に出さない人事・監督の技術、勢は君主の地位・権力。韓非子はこの三者を結合して統治論を組み立てた。

問7 (例) すべての人を等しく愛する「兼愛」を実践すれば、他国の人々をも自国の人と同じように大切にすることになり、おのずと他国を攻める侵略戦争（＝攻）はなくなるという関係にある。／（解説）「兼愛」が原理で、「非攻」はその具体的な帰結・実践面にあたる。

問8 (例) 儒家の「仁」が、まず肉親への愛から始めて段階的に他者へ及ぼす、親疎・遠近による差を認める愛（差等のある愛）であるのに対し、墨子の「兼愛」は自他や親疎の区別をいっさい設けず、すべての人を等しく愛する点で異なる。／（解説）儒家＝差別愛（差等のある愛）、墨家＝兼愛（無差別・平等な愛）と対比される。

問9 人の身を視ること其の身のごとくんば、誰か賊はん／（解説）「視A若B」は「Aを視ることBのごとし」。「若其身」は「其の身のごとくんば」と仮定で読む。「誰賊」は反語で「誰がそこなおうか、いや、そこなわない」。

問10 天下の人々が分け隔てなく互いに愛し合えば（世は）治まり、互いに憎み合えば（世は）乱れる。／（解説）「兼相愛」＝自他の区別なく互いに愛すること。「交相惡」＝かわるがわる互いに憎み合うこと。「則」は「～すれば（then）」。

問11 (例) 侵略戦争を最大の害悪として否定する主張。(19字)／（解説）「非攻」は他国への侵略戦争に反対する考え。自衛は否定していない点に注意。

**問12** (例) 一人を殺せば罪人として罰せられるのに、戦争で他国を攻めて多くの人を殺すと、かえって「義」として称賛される。殺人の規模が大きいほど称えられるのは、是非の判断として明らかに矛盾している、というもの。／ (解説) 墨子は殺人の罪の大小という一貫した基準から、侵略戦争の不当性を論じた。

**問13** イ・エ／ (解説) ア…誤り。韓非子は賞罰の権限を臣下に渡してはならない (自分で握るべきだ) と説いた (本文①参照)。ウ…誤り。「兼愛」は差別をしない平等な愛で、身内だけを重んじる愛ではない。イ…正しい (非攻)。エ…正しい。法家の思想は李斯らを通じて秦の統一国家を支えた。

**問14** 信賞必罰／ (解説) 功績には必ず賞を、罪には必ず罰を与えること。賞罰を厳格・公正に行うことで臣下を統御するという、法家の中心となる考え方。

**問15** (例) 儒家が君主の徳によって人民を感化する徳治を理想とするのに対し、韓非子の「法」は身分の高い者にも例外なく等しく適用され、君主の徳ではなく公開されたきまりによって国を治めようとする点に特徴がある。／ (解説) 「法は貴きに阿らず (法律は身分の高い者にもおもねらない)」という法家の立場をおさえる。

**問16** 法家／ (解説) 道徳ではなく法・術・勢による統治を説いた学派。韓非子のほか、商鞅・申不害・李斯らがこの流れに属する。

**問17** 兼愛／ (解説) 「兼」は「あわせて・分け隔てなく」の意。自分も他人も等しく愛する博愛思想で、家族や身分による愛の差をつける儒家の立場と対立する。

**問18** (例) 人々が互いに愛し合わず、自分や自分の身内だけを愛して他人を区別する「別愛」の心にある。本文に「交相悪めば則ち乱る」とあるように、自他を分け隔てる心が争いや盗みを生むと考えた。／ (解説) 墨子は乱の原因を「不相愛」に求めた。

**問19** 墨家／ (解説) 墨子 (墨翟) を祖とする学派。固い組織と規律をもち、戦国時代には儒家と並ぶ二大学派とされた。

**問20** 老子 (または荘子) ／ (解説) 「無為自然」を説いた道家の代表者。人為的な制度・道徳・法を退ける道家の立場は、法による厳格な統制を説く法家と対照的である。

**問21** (1) ア (恩賞・ほうび) (2) イ (害する・傷つける) ／ (解説) 「慶賞」は功をたたえて与えるほうび。「賊 (そこなふ)」は他人や物を傷つけ損なうこと。

**問22** 荀子／ (解説) 性悪説を唱えた戦国末の儒家。韓非子と李斯はその門下で学んだとされ、荀子の性悪説は人を法で律する法家思想の一つの背景となった。